

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

「物理的領域」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「科学的領域」

◇全国平均を上回っている。

「生物的領域」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「地学的領域」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

●濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できること。

例) 理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる

●風向の観察方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用すること。

例) コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる。

●植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘すること。

例) 部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる。

○日常生活におけるみそ汁や紅茶などの濃度調整の経験を取り上げ、溶質と溶媒の質量の組み合わせから濃度の高低を指摘するなどの学習場面の充実。

○広域の気象情報と観測者が捉える気象現象とを関連付け、空間と方位、時間の観点から気象現象を考えたり説明したりする場面を取り入れた学習活動の充実。

○事前の事象・現象を科学的に探究する際に、「原因として考えられる要因」を全て挙げ、実験の計画を検討する授業改善や、他の分野や領域で身に付けた知識・技能も活用して、自然の事物・現象や日常生活で目にする事象を多面的な視点に立って考える場面を取り入れた学習活動の充実。